

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成19年10月12日(金) 5校時
対 象 2年A組(男子5名 女子6名 合計11名)
授業者 教諭 吉田 信



1 教材名 『モアイは語る - 地球の未来 』(安田喜憲)

2 教材について

(1) 教材観

この教材は環境問題を取り扱った説明的文章である。すでに1年生の時に『未来をひらく微生物』で身近な環境問題については学んでいる。内容はモアイを研究することによって明らかになった絶海の孤島イースター島の歴史、モアイを作るために森林の伐採を続け、結果的にイースター島の文明が崩壊してしまった事実、同じ運命をたどらないようにするための読み手に向けた筆者の意見が、事実や事例を交えながらわかりやすく述べられている。

論理の展開として、大きく三つのまとまりから構成されている。接続詞も巧みに用いられており、文章構成も把握しやすい。第一のまとまりで、読者に対しイースター島、モアイに関わる謎を提起して読者の興味を引きつけ、第二のまとまりでは、筆者自身の調査結果から導き出された事実を根拠に、謎を解明していく。その上で、宇宙空間で孤立した地球と、絶海の孤島イースター島を対比し、文明崩壊の直接的要因である森の消滅に触れ、森林の重要性と長期にわたる森林資源の有効利用を訴えている。筆者の主張を把握するために、文章中に述べられている情報を根拠に熟考させることは、「PISA型読解力」の育成にふさわしい教材と考える。

(2) 生徒の実態

この学年は小学校の時に、自分の考えや思いを表現できるように、国語科における「書くこと」の領域を丁寧に指導されてきた。教科書に掲載されている様々な文章教材について、初発の感想や、授業の中における様々な「書く作業」に取り組ませると、内容に差はあるが、ほぼ全員がスムーズに書くことができ、書くことに対する抵抗感はあまりない。

ただし、説明的文章については、抽象的な言葉や専門用語が多く出てくるせいか、やや学習意欲が低いように感じる。文章の構成をとらえる学習では、1年生の時に問題提起とその答えを見つける学習、2年生の一学期に「事実」から「考察」への論理展開を学ぶことで、読み手に理解しやすい文章構成をする必要があることを学んだ。しかし、記述されている内容を大雑把に理解できても、それを要約したり、必要な情報を取り出して文章を再構成することについては苦手意識を持つ生徒もいる。それを改善するための手段として、「PISA型読解力」の育成は有効であると考えられる。

これまでは文章構成や要約をわかりやすく指導しようとするあまり、説明的文章の面白さから離れてしまったという反省点から、今回は題名である『モアイは語る』に着目させ、「モアイが語っている内容」を常に意識させ、生徒の興味が筆者の主張から離れないようにしていきたい。

(3) 研究主題との関連

本校の研究主題は、読解力を高める指導過程の工夫を通して、基礎・基本の定着を図り、生きる力育てる指導のあり方を明らかにすることである。「読解力」という言葉を辞書で引くと、『文章を読んで、その意味や内容を正確に理解する力』と記述されている。

しかし、本校の研究主題とする読解力は「PISA 型読解力」を基盤としている。この読解力は、『自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力』と定義されている。これは国語科本来の「読解力」とは異なるものであるが、「PISA 型読解力」の主要な観点である【情報の取り出し】【解釈】の段階に概ね位置づけることができる。この教材では単に「読む」教材として扱うだけではなく、「現代との比較」を行うことで【熟考・評価】する場面を設定して日常化、一般化を図り、そこから本時の山場である論述へつなげていきたい。

これから生徒たちが変化の激しい社会に出て生活していく中で、「PISA 型読解力」の求めるコミュニケーション能力は非常に重要であると考え。自分の考えを適切な言葉で相手に伝えるための言語知識の獲得と、それを使いこなす言語能力を身につけさせることが、研究主題に掲げられている「生きる力」を育むことにつながると考える。

また、学習指導要領の中にも「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと（読むことエ）」とある。従って、「書く力」との連動を図るために必要な「情報の取り出し」「解釈」の時間を毎時間の授業で十分に確保し、論述するための材料をしっかりとそろえさせたい。さらに、生徒の表現場面に見合った言葉を、生徒が自ら選択出来るように指導していくことで、読解力の向上を図りたい。

3 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・モアイについて興味を持ち、過去の遺構から未来を考える筆者の着眼点に着目し、積極的に文章を読む。

【読むこと】

- ・文章中に示された事実や根拠を的確に読み取り、筆者の意見を理解することができる。
- ・文章のまとまりごとの構成に着目し、段落の役割や論理の展開の仕方をとらえることができる。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・語句の効果的な使い方について理解を深め、自分の表現に役立たせることができる。

4 指導計画・・・6時間

時	学習内容	関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解技能
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字、難語句の意味確認する。 ・全文を通読し、おおまか内容をとらえる。 ・初発の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の題名や内容に興味を示し、筆者の着眼点に注目して読もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の着眼点に基づき、文章全体の構成をおおまかにとらえている。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・段落に着目し、全体の文章構成を把握する。 ・導入（第一のまとまり）における筆者の問題提起の内容を押さえる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全体を問題提起・本文・結論の三つのまとまりに分けることができ、本文がさらに4つに分かれることを理解している。 ・第一のまとまりにある問題提起の内容を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語、指示語に注意して読んでいる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・本文（第二のまとまり）を通読し、4つのまとまりに小見出しをつける。 ・4つのまとまりの内容を要約する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・段落のつながりを示す語句や筆者の判断を表す語句に注意して読むことができる。 ・自分がつけた小見出しを発表し、その根拠を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語、指示語に注意して読んでいる。

4	・本文（第二のまとめ）の内容について、展開や根拠をとらえる。		・第一のまとめにある問題提起に対する答えと、その答えを導き出した根拠をとらえている。	
5 本時	・第三のまとめの内容をとらえる。 ・文明崩壊と現代との関わりについて考える。		・文章中から条件に沿った情報を取り出すことができる。 ・第三のまとめの内容を理解し、筆者の意見を要約することができる。	
6	・前時にまとめた内容を交流する。 ・学習全体を振り返り、論理の展開の仕方や、根拠の示し方を確認する。	・声の調子や間のとり方などを意識して、発表することができる。 ・友人の発表を聞き、自分の考えを訂正したり、意見を言うことができる。		・文脈中での語句の意味を正確にとらえ、自分の表現に役立てようとしている。

5 本時の展開

(1) 目標

『モアイが私たちに語りようとしている内容をつかむ』

(2) 指導の構想

本時の基礎・基本

- ・文章から必要な情報を取り出し、それを適切に加工・表現することができる。

本時の指導過程の工夫

今年度から語彙力向上を図るために、漢字書き取りの宿題を強化し、単元終了後の確認テストに加え、毎時間の授業においてフラッシュカードを用いた新出漢字の「読み」を実施している。本時も導入時にそれを行い、視覚に訴えることと音読を組み込むことで完全な定着を図る。

本時のねらいを明確に示し、学習課題を提示後、イースター島の歴史に関わる既習事項を発表させる。「現代との比較」を行なうために、【情報の取り出し】が必要であることに気づかせたい。

過去のイースター島と、現代を比較するための共通するキーワードとしては、「人口」「森林」「地理的条件」などが挙げられる。前記に関わる発表が生徒から引き出せるように、発問の言葉、仕方にも気を配っていく。

【情報の取り出し】では、第三のまとめを読んで、イースター島の歴史事実に対応している、現代の状況が記述されている箇所を抜き出させる。後半の【熟考・評価】の場面でしっかりと論述をさせるために、正確な【情報の取り出し】をさせるようにしたい。

後半では取り出した情報を踏まえて、筆者の主張をとらえていく。ここでは筆者の視点ではなく、文明が崩壊してから現代までの長い間、地球を見守り続けてきたモアイの視点で記述させていく。これは、『モアイは語る 地球の未来』とタイトルにあるように、モアイの言葉で語らせることにより、自分で言葉や表現を工夫・していく必要性が生じる。【熟考・評価】の時間を十分に確保して、適切な表現でまとめさせるように個別指導をしていきたい。



(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動 は読解力に関する部分	指導上の留意点 評価 指導上の工夫
導入 5分	1 新出漢字の確認 2 学習場面の確認 3 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードで「読み」の振り返りをする。 ・本時の学習場面である第三の場面を音読する。 ・学習課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、語句の意味を問う発問もするようにしたい。 ・全員で音読する。
学習課題 『モアイは私たちに何を語っているのだろう』			
展開 43分	4 既習事項の確認 【情報の取り出し】 5 現代との比較 【情報の取り出し】  6 筆者の主張把握 【熟考・評価】 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で読み取ってきたイースター島の歴史について確認する。 <p style="text-align: center;">イースター島の地理的条件 イースター島の人口増加 イースター島の森林</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の音読後、第三のまとめりから、イースター島の歴史と比較すべき現代の状況に関わる情報を抜き出す。  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で微音読をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・取り出した情報を基に、第三のまとめりを再読し、筆者の主張をモアイの言葉で記述する。 ・論述の条件として字数制限は設けない。 ・時間制限は生徒の様子を見ながら、10~15分程度 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードとなる「地理的条件」「人口」「森林」に関わる発問をする。 ・氏名読みさせる。 ・対応する情報は1つとは限らないことを伝える。 <p>キーワードに関わる該当箇所に線を引かせる。 既習事項からの情報を理解し、各場面において、キーワードに沿った情報を抜き出すことができる。(発表)</p> <p>モアイの視点・言葉で記述させることで、教科書の記述以外でも、自分が現代と比較できる情報を知識として持っている場合は、論述できるように仕向けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブタイトルに注目させる <p>文章から必要な情報を取り出し、読み取ったことを文中の言葉を用いて書くことができる。(観察・ノート)</p>
まとめ 2分	7 まとめ、次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを集める。 ・次回、今日記述したことを交流することを伝える。

6 本時の評価

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：支援を要する生徒への手だて
【読むこと】	既習事項からの情報を理解し、各場面において、キーワードに沿った情報を抜き出して、加工・表現することができる。	既習事項からの情報を理解し、各場面において、キーワードに沿った情報を抜き出すことができる。	キーワードをもう1度確認させ、現代とイースター島の共通点について記述されている箇所を見つけられるよう、個別指導にあたる。
	第三のまとめりから必要な情報を的確に取り出し、読み取ったことを自分の言葉で工夫しながら、適切にまとめることができる。	第三のまとめりから必要な情報を取り出し、読み取ったことを文中の言葉を用いて書くことができる。	教師側でワークシートのひな形を準備し、その中に語句を記述させることで、本時のねらいに迫る。